

無病息災（仏さまの功徳を頂く）

法華經安樂行品第十四

しよてんらゆうや

諸天昼夜

じょういほうこ

常為法故

にえごし

而衛護之

どくぜきしょうしゃ

読是經者

じょうむうのう

常無憂惱

うむびょうつう

又無病痛

がんしきせんびやく

顔色鮮白

しよてんらゆうや

諸天昼夜に常に法

のためのゆえに、

しかもこれを衛護

せん。

この經を讀まん者

は、常に憂惱なく、

また病痛なく、

顔色鮮白ならん。

また病痛なく、

顔色鮮白ならん。

また病痛なく、

顔色鮮白ならん。

また病痛なく、

大意◆この經文は安樂行品の二つの部分をつなげたものです。前半三行でお釈迦さまは「善神が昼夜にわたって衛護してくれている」と述べられていきます。更に後半のお言葉で「法華經を讀誦する者は、不安や悩みや病の苦痛がなく、顔色も生き生きとしている」と法華經を讀誦することの功徳を述べています。